

第27回マルセイユ国際
ドキュメンタリー映画祭
正式招待

第36回アミアン国際映画祭
最優秀ドキュメンタリー賞
受賞

アムステルダム国際
ドキュメンタリー映画祭
2016 正式招待

京都国際映画祭
2016 クローズング
上映

第10回マルセイユ
国際科学映画祭
最優秀映画賞

LA TERRE ABANDONNÉE

残されし大地

監督：ジル・ローラン



Screenplay & director Gilles Laurent Film editor Marie-Hélène Mora Camera operator Laurent Fénart Sound recording Nicolas Joly, Gilles Benardeau
Sound editing Alexander Davidson Mixing Rémi Gérard, Empire Digital Executive Producer Cyril Bibas
Production CVB - Centre Vidéo de Bruxelles Michel Steyaert Co-production WIP - Wallonie Image Production - Pierre Duculot, Take Five - Grégory Zalzman
With the support of the Center of the Cinema and the Audiovisual of the Wallonia-Brussels Federation, Nationale Lotery and
Walloon Region, the Tax Shelter of the Federal Government of Belgium in association with Take Five Invest. ©CVB/WIP/TAKE FIVE-2016-Tous droits réservés.

2016年3月22日、ブリュッセルのテロにて
他31名の犠牲者と共に命を落とした映画監督ジル・ローラン。
遺されたのは、彼がベルギーを離れてフランスで出会った
故郷を思い、その土地とともに生きる家族の物語だった。

いちじくの実る町
夜明けの音がきこえる

プロデューサー：シリル・ビバス
出演：松村直登ほか
制作：CVB Brussels
配給プロデューサー：奥山和由（チームオクヤマ）
配給協力：太秦
提供：抵園会館
後援：ベルギー王国大使館

ベルギー観光局ワロン・ブリュッセル

©CVB / WIP / TAKE FIVE - 2016 - Tous droits réservés

2016 | ベルギー | カラー | DCP | 5.1ch | 76分

www.daichimovie.com

残されし大地

プロデューサー：シロ・ピバス 出演：松村直登ほか 制作：CVB Brussels
 配給プロデューサー：栗山和由（チームオクヤマ） 配給協力：太秦 提供：映画会館
 権限：ベルギー・王国大使館 ベルギー観光局/シノマテック
 ©CVB / WIP / TAKE FIVE - 2016 - Tous droits réservés
 2016 | ベルギー | カラー | DCP | 1.5ch | 76分 www.daichimovie.com

ジル・ローラン監督が見つめた、 FUKUSHIMAの“人と土地のつながり”

監督のジル・ローランは、ベルギーを拠点に主に欧州で活躍するサウンドエンジニアだった。妻の母国である日本に2013年に家族と共に来日。“福島”について調べた中で、海外メディアで紹介されていた松村直登氏の存在を知り、自らメガホンを取る事を決意。そして選んだ題材が“土地と寄り添いながら生きる人たちの力強さ”だった。3組の家族に寄り添う事で、日常としての福島、そして故郷を愛する思いを紡ぎ出す。“反原発”を声高に語るわけではなく、土地本来の持つ変わらぬ自然の美しさを切り取り、感じ取ってもらうことに、ジル・ローランの監督としてのメッセージが込められている。

初監督作品にして遺作となった、生命の映像詩。 妻の母国・日本で待望の公開。

パリ同時テロ後の12月、編集作業のためにジル監督は祖国ベルギー・ブリュッセルに一時帰国。編集作業が最終段階に差し掛かった2016年3月22日ベルギー地下鉄テロで命を落とすという思いがけない事件が起こる。映画はジル監督の想いを受け継いだ、プロデューサーや同僚らの手によって完成。そしてベルギーの仲間達、妻の熱い想いが伝わり、2017年春日本での公開が決定した。

まさに製作者が、命を懸けて、命の尊さを描いた珠玉のドキュメンタリー映画である。

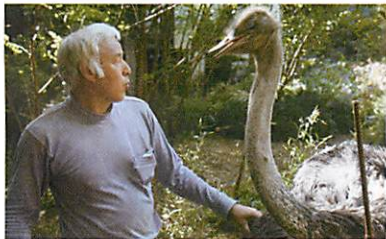


STORY

福島第一原発から約12キロ離れた、福島県双葉郡富岡町。2011年3月11日福島原子力発電所の事故のあと、町に残された動物を保護し育てる為、自分の故郷・富岡町に残る事を決めた松村直登さん。寡黙な父とふたり、いまでも避難指示解除準備区域の自宅に留まっている。

「水と土で生きてるんだ。」と穏やかに語る農作業中の半谷信一さんの背後にはフレコンバックが積まれ、除染作業が淡々と行われている。故郷で生きる事を決意した彼らは、故郷福島に突きつけられた現実の中、たくましく笑顔で日常を送っていた。

お彼岸の墓参りで“来年こそ”は故郷への帰還を先祖に誓う佐藤夫妻の手には、放射能測定器があった。南相馬市の自宅の庭に実った、自然の再生、生命力の象徴と言われるイチジクを食べながら、かつてこの町に暮らしていた友人たちと語り合う時間。各々が家族の事情を抱え、3.11以後の国や行政、そして故郷に戻る者、戻らない者の間に生まれる葛藤に揺れ動いていた。淡々と進んでいく日常生活の中で、彼らが自然体で紡ぐ言葉の中に“ある日”を境に、かつての故郷を失った人間たちの今とこれからが見えてくる。



2017年3月 シアター・イメージフォーラム
にてロードショー!

フォーラム福島、シネマテックたかさき ほかに全国順次公開
特別鑑賞券1,500円(税込)絶賛発売中!【当日一般1,800円の処】

渋谷駅より徒歩8分
富益坂上り青山通り裏参道方面一ツ目の信号右入る

【シアター】
イメージフォーラム

03(5766)0114
http://www.imageforum.co.jp/theatre/

